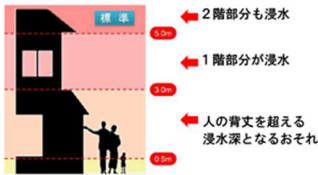
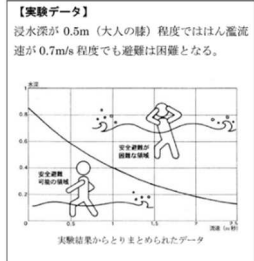


2) マクロ分析

災害リスクの評価にあたっては、浸水深や継続時間等のハザード情報が、どのような被害につながるのか、過去の調査や実績等に基づくデータ等を参考として行うものとします。

具体的には、立地適正化計画策定の手引き（国土交通省都市局都市計画課 令和2年9月改訂）に示される以下の内容を参考として、居住推奨区域における災害リスクを分析します。

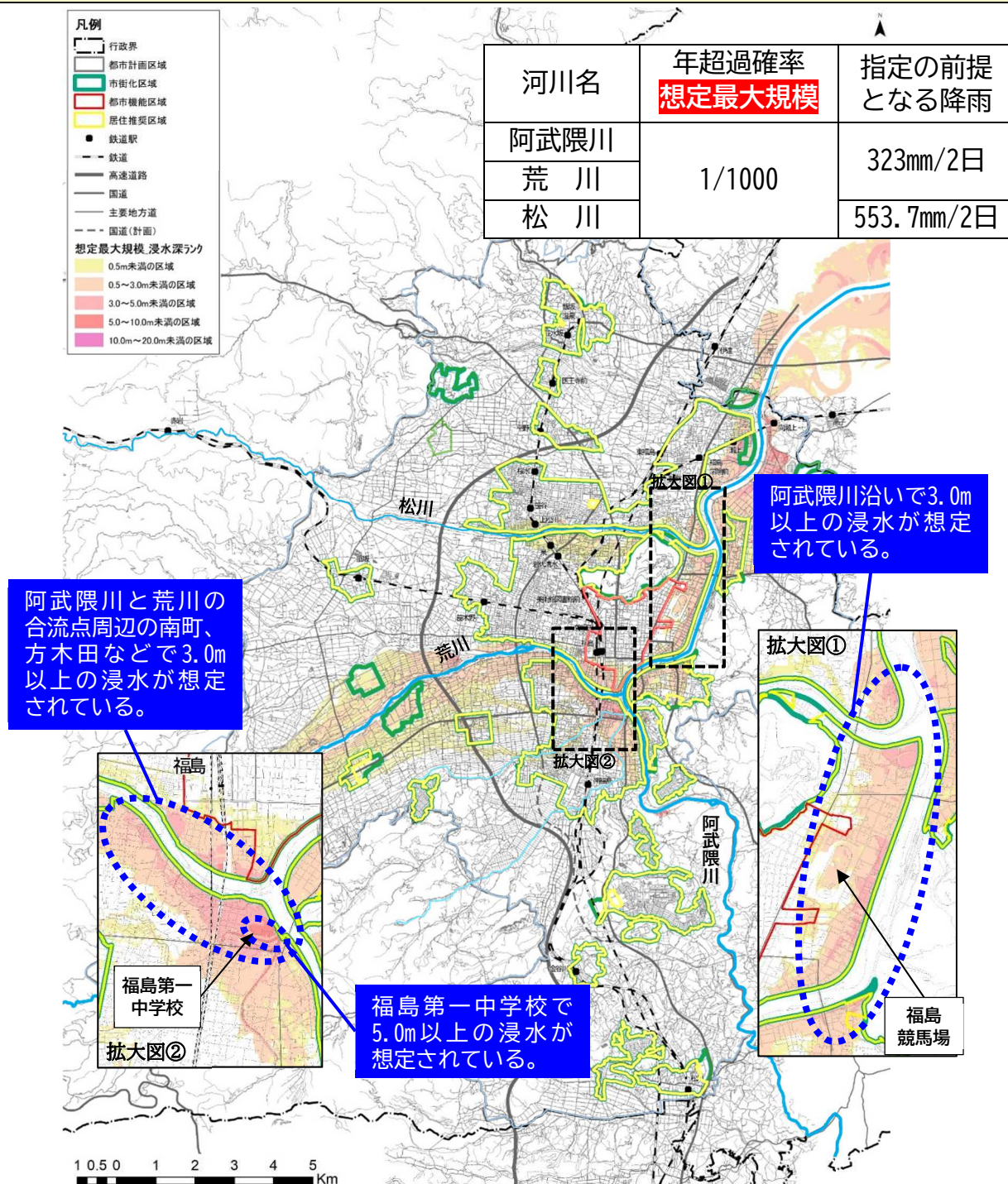
分析内容	分析事項	災害想定の種類
浸水深と人的被害のリスク 	○垂直避難が困難と想定される 浸水深 3m 以上の範囲 ○浸水深 3m 以上の範囲における建物階数 ○浸水深 3m 以上の範囲における土地利用状況	○浸水想定区域 ・想定最大規模 ・計画規模 ○内水想定区域
浸水深・流速と避難行動 	○垂直避難が困難と想定される浸水深 3m 以上の範囲における浸水深 0.5m となる 浸水到達時間 ○徒歩による水平避難を前提とした指定避難所・指定緊急避難場所の配置状況	○浸水想定区域 ・想定最大規模 ・計画規模
浸水継続時間と避難生活環境	○72 時間（3 日）以上浸水が継続する範囲	○浸水想定区域 ・想定最大規模
流体力と家屋の被害の関係	○家屋倒壊等氾濫想定区域の範囲 ○家屋倒壊等氾濫想定区域内の建築物の構造別分布状況	○浸水想定区域 ・家屋倒壊等 氾濫想定区域

※浸水想定区域は水防法に規定しているものとする。

① 人的被害リスクの分析

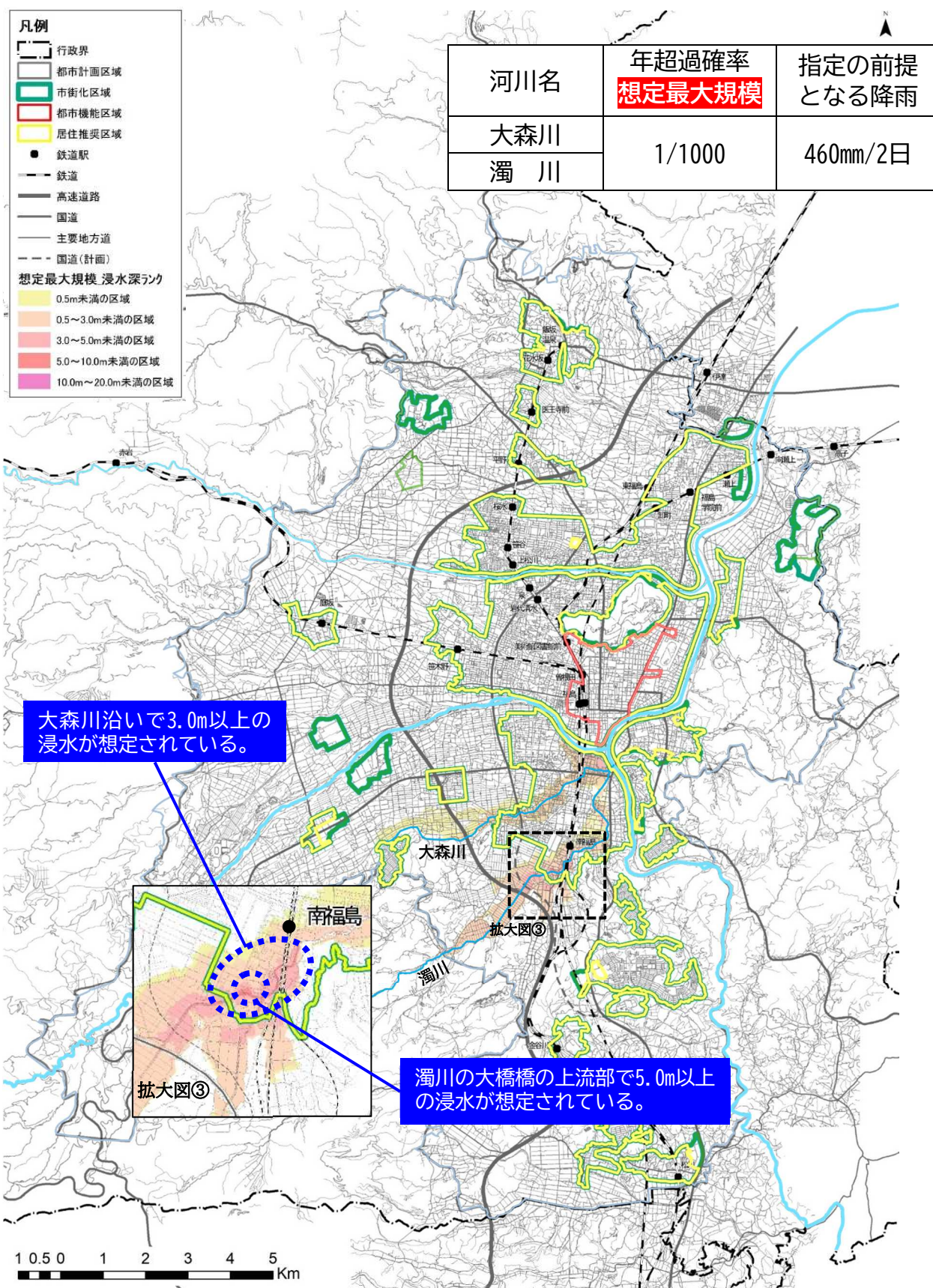
【浸水深3.0m以上の範囲】洪水浸水想定区域（想定最大規模）

- 阿武隈川、荒川、大森川、濁川からの洪水によって3.0m未満の浸水が想定されるエリアが広がっており、そのうち、一部のエリアにおいて3.0m（一般的な家屋の2階床下の高さに相当）を上回る浸水が想定されています。
- また、阿武隈川と大森川の合流点周辺や濁川の大橋橋の上流部においては、5.0m（一般的な家屋の2階が水没する高さに相当）を上回る浸水が想定されています。



※【阿武隈川・荒川】国土交通省東北地方整備局福島河川国道事務所（令和2年3月18日公表）
【松川】福島県（平成30年3月30日公表）

洪水浸水想定区域①

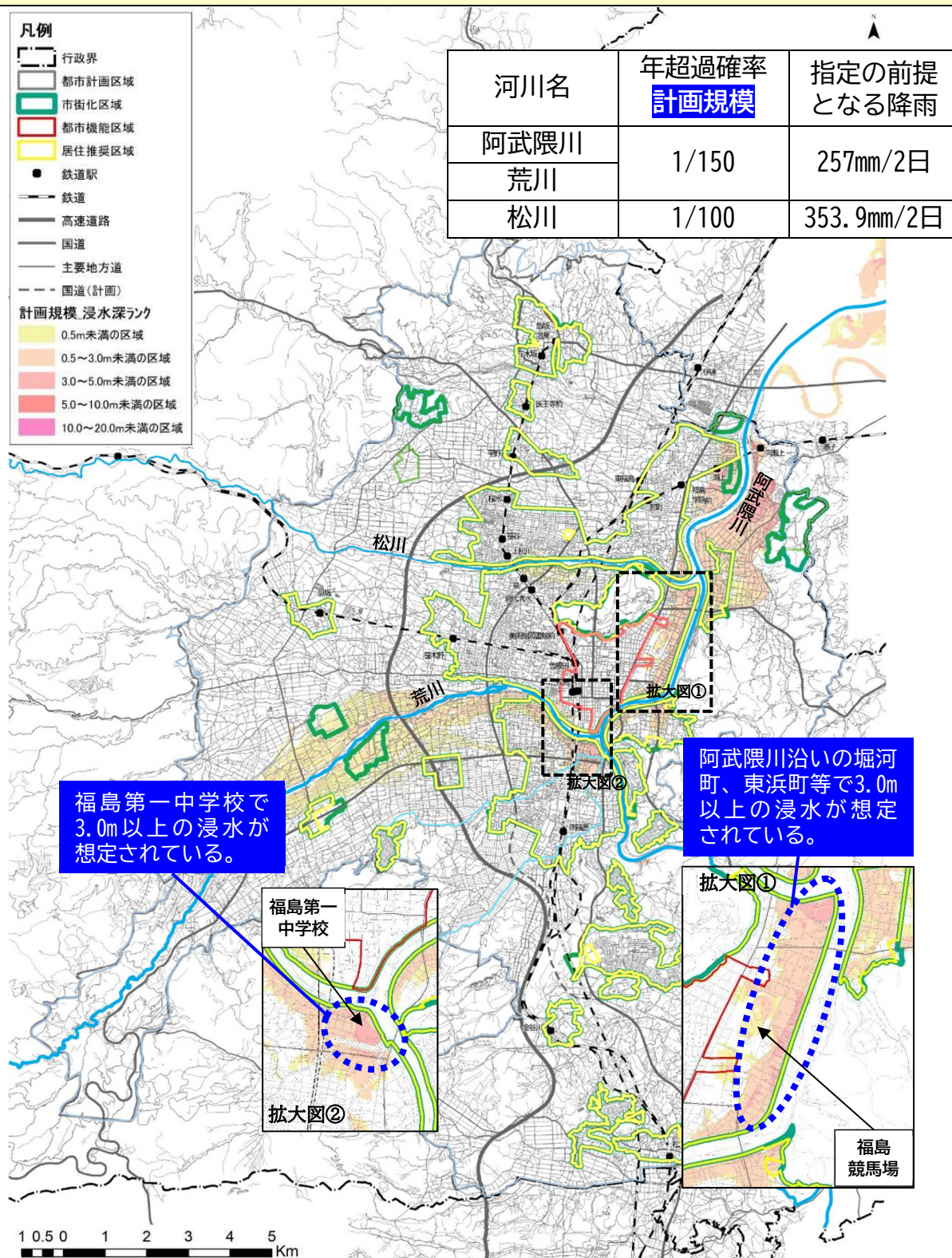


※【大森川・濁川】福島県（令和3年3月26日公表）

洪水浸水想定区域②

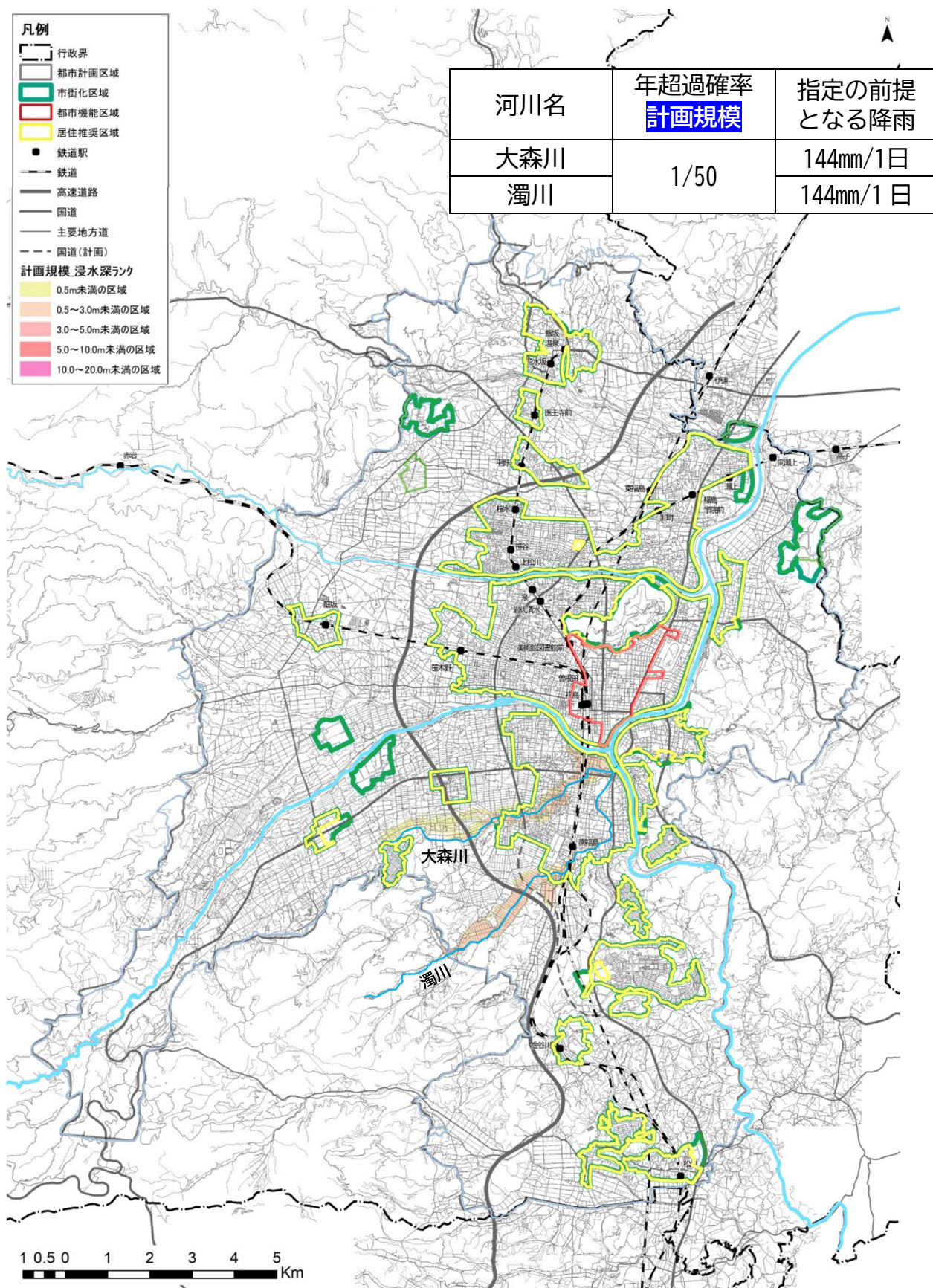
【浸水深3.0m以上の範囲】洪水浸水想定区域（計画規模）

- 阿武隈川沿いにおいて、3.0mを超える浸水が想定されています。
- 阿武隈川と荒川の合流点周辺においても、福島第一中学校の敷地で3.0mを超える浸水が想定されています。



※【阿武隈川・荒川】国土交通省東北地方整備局福島河川国道事務所（令和2年3月18日公表）
【松川】福島県（平成30年3月30日公表）

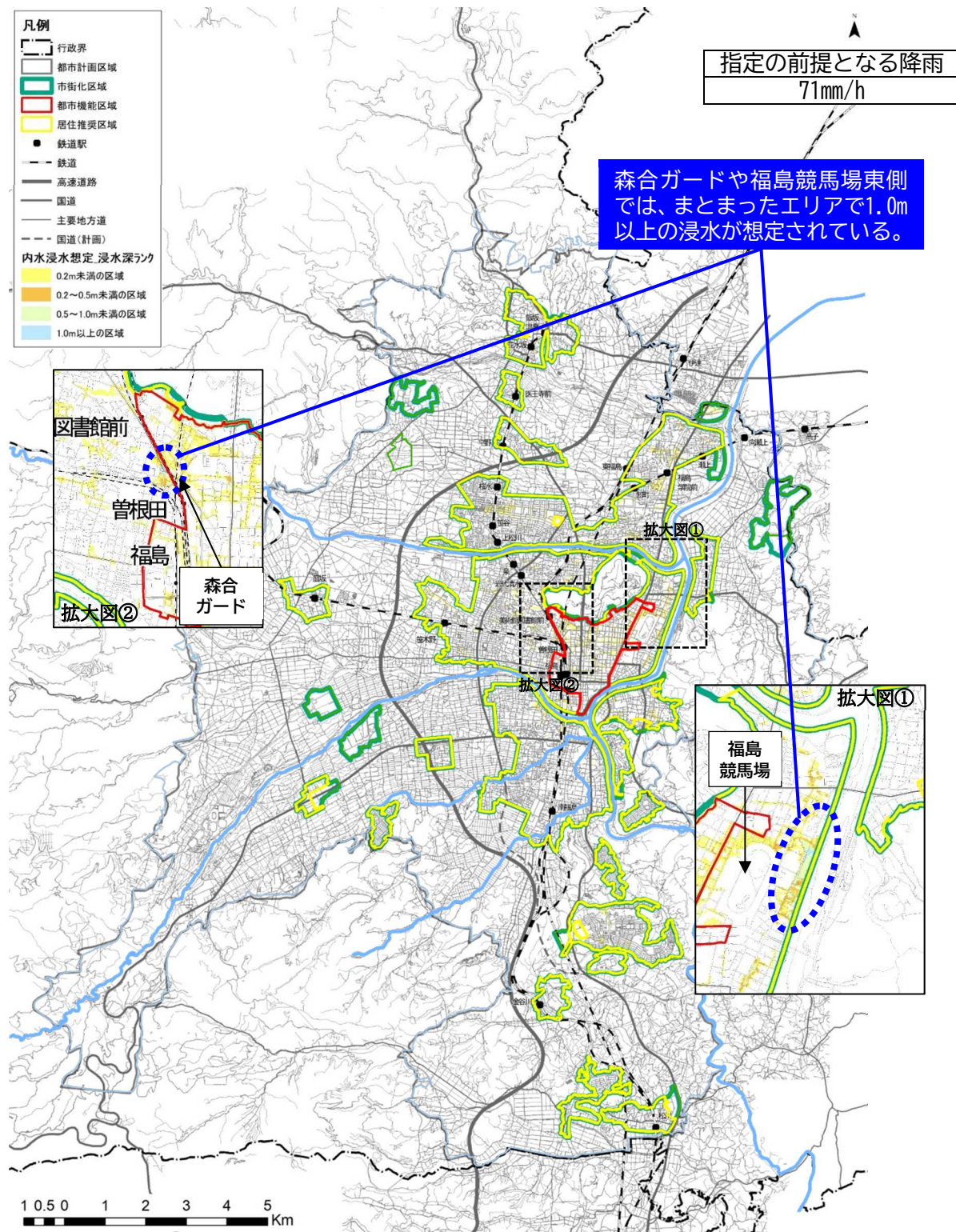
洪水浸水想定区域③



洪水浸水想定区域④

【浸水深3.0m以上の範囲】内水浸水想定区域

- 特に都市機能区域を中心に内水による浸水が想定されていますが、そのほとんどが0.2m未満の区域となっています。
- このなかで、森合地区の森合ガードや福島競馬場東側では、まとまったエリアで1.0m以上3.0m未満の浸水が想定されています。

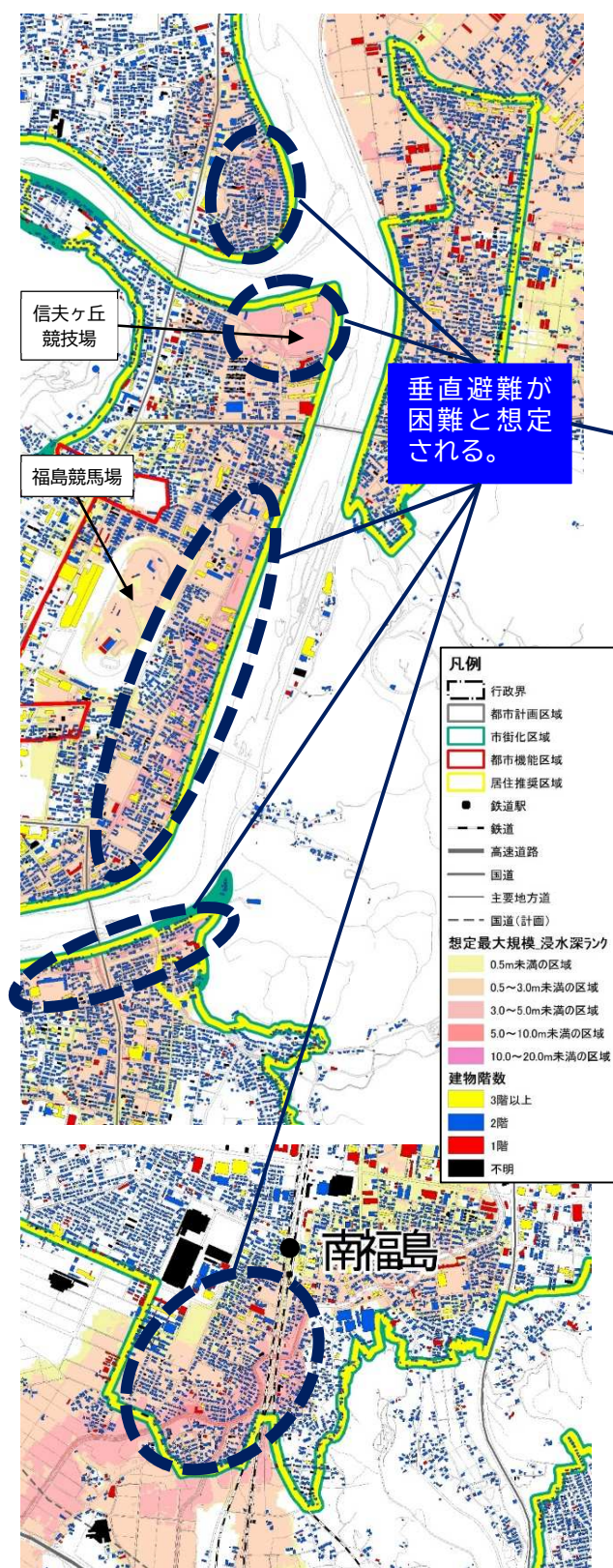


※内水浸水想定区域：福島市資料（令和2年5月公表）

内水浸水想定区域

【浸水深3m以上の範囲における建物階数】浸水深（想定最大規模）×建物分布×建物階数

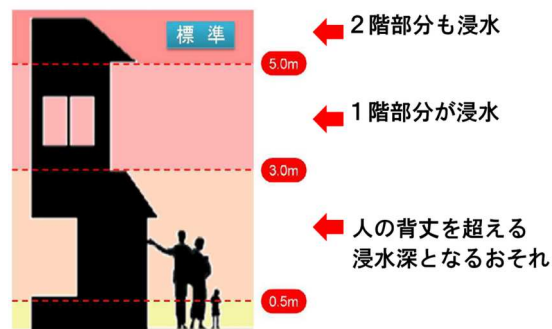
- 浸水深が3.0mを上回ると想定されるエリア内では、約93%の建物が、垂直避難が困難と想定される2階建て以下となっています。



想定最大規模



- 想定される浸水深が3.0mを超える場合、一般的な家屋の2階床下相当、5.0mを超えると2階が水没と言われている。



洪水浸水想定区域図作成マニュアル（第4版）から抜粋した図を一部加工

- ※浸水想定区域（想定最大規模）：
 【阿武隈川・荒川】国土交通省東北地方整備局福島河川国道事務所（令和2年3月18日公表）、
 【松川】福島県（平成30年3月30日公表）、
 【大森川・濁川】福島県（令和3年3月26日公表）
 ※建物分布・建物階数：平成29年度都市計画基礎調査

洪水浸水想定区域内における建物分布・建物階数の状況①

【浸水深3m以上の範囲における建物階数】 浸水深（計画規模）×建物分布×建物階数

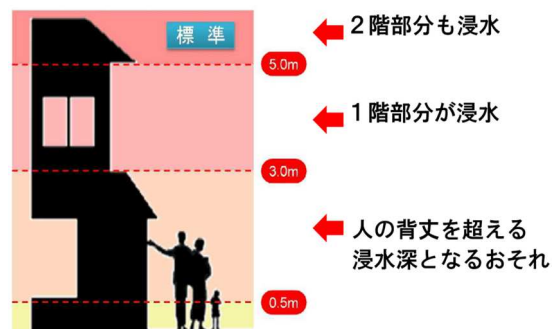
- 計画規模においても、約91%の建物が2階建て以下となっています。



計画規模



- 想定される浸水深が3.0mを超える場合、一般的な家屋の2階床下相当、5.0mを超えると2階が水没と言われている。



洪水浸水想定区域図作成マニュアル（第4版）から抜粋した図を一部加工

※浸水想定区域（計画規模）：

【阿武隈川・荒川】国土交通省東北地方整備局福島河川国道事務所（令和2年3月18日公表）

※建物分布・建物階数：平成29年度都市計画基礎調査

洪水浸水想定区域内における建物分布・建物階数の状況②

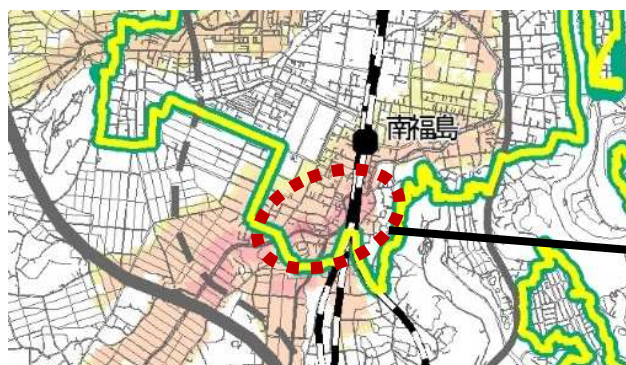
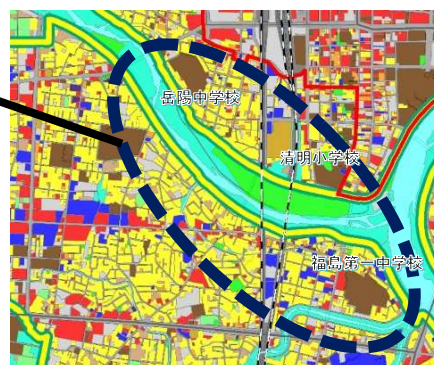
【浸水深3m以上の範囲における土地利用状況】浸水深（想定最大規模）×土地利用

- 3.0m以上の浸水が想定されるエリアについては、信夫ヶ丘競技場や中学校用地等の公共公益施設の敷地もみられますが、多くの場所で住宅用地としての活用となっています。

想定最大規模



3.0m以上の浸水想定エリアは住宅用地としての利用が中心。



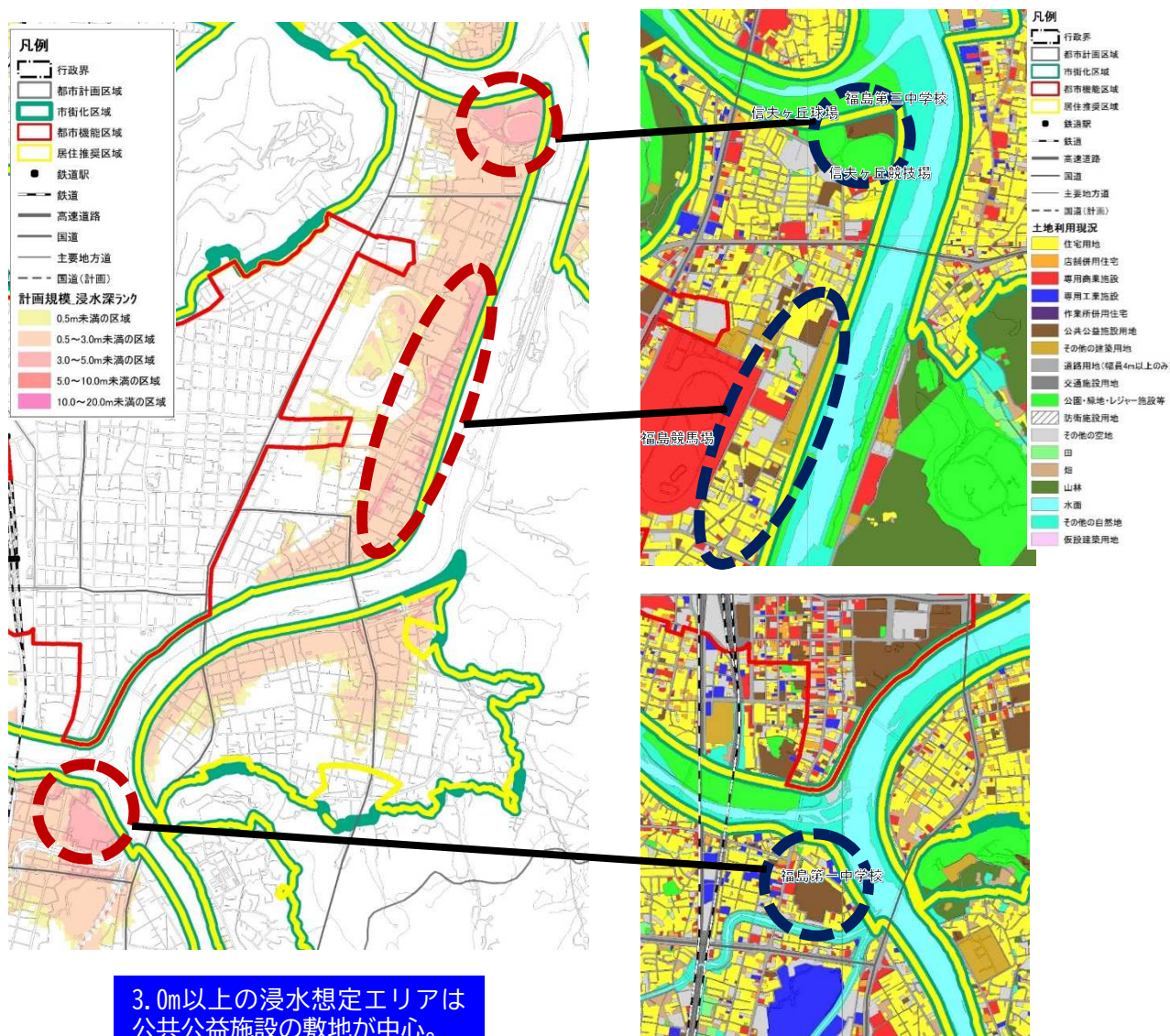
※浸水想定区域（想定最大規模）：【阿武隈川】国土交通省東北地方整備局福島河川国道事務所（令和2年3月18日公表）
※土地利用：平成29年度都市計画基礎調査

洪水浸水想定区域内における土地利用の状況①

【浸水深3m以上の範囲における土地利用状況】浸水深（計画規模）×土地利用

- 計画規模想定においては、公共公益施設の敷地が中心となっています。
- 松川、大森川、濁川流域では、浸水深が3.0mを上回ると想定されるエリアはありません。

計画規模



※浸水想定区域（計画規模）：【阿武隈川】国土交通省東北地方整備局福島河川国道事務所（令和2年3月18日公表）

※土地利用：平成29年度都市計画基礎調査

洪水浸水想定区域（計画規模）内における土地利用の状況②